

～「木簡庫」(MOKKAN-KO)とは～

「木簡庫」(MOKKAN-KO)は、木簡に記載された文字及び文字画像だけでなく、木簡に関するさまざまな情報を検索するシステムです。従来の木簡を調べる「木簡データベース」と、木簡の文字画像を調べる「木簡画像データベース・木簡字典」を統合して、検索窓を一つにし、利便性を向上させました。

【内容】

- ・既存の「木簡データベース」と「木簡画像データベース・木簡字典」を統合
- ・5つの検索方法を搭載

新DB「木簡庫」			従来のDB群
木簡をさがす	「すべて」検索	—	「木簡データベース」の基本機能
	「本文」検索	—	「木簡データベース」の フィールド指定
	「項目」検索		
	「カテゴリー(意味)検索」	—	「木簡字典」の意味検索
文字画像をさがす	「テキストから」検索	—	「木簡字典」の基本機能
	「画像から」検索(「MOJIZO」へのリンク)	—	「MOJIZO」

- ・木簡データ、文字画像データを収録

収録データ数

木簡点数 約53,000点 (2018年3月現在)

文字画像数 約100,000点 (2018年3月現在)

◆URL : <http://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/>

◆公開日 : 2018年3月22日(木)

*報道解禁 テレビ・インターネット等 2018年3月22日(木) 17:00～
新聞等 2018年3月23日(金) 朝刊

【開発の経緯】

- ・PC普及以前の1980年代初めから、木簡データベースの構築を開始 ⇒1999年、「木簡データベース」を公開
80年代末から90年代初頭にかけての長屋王家木簡・二条大路木簡という膨大な量の木簡出土に対処するためのデータベースの構築。
- ・個々の文字を比較検討できる、木簡の文字画像データベースを構築 ⇒2005年、「木簡字典」公開
2005年に公開した後も、継続的に機能追加(別紙「沿革」参照)
- ・画像から木簡・古文書等の類似画像を検索するシステム開発 ⇒2016年、「MOJIZO(モジゾー)」公開
「木簡字典」は読めない文字の画像検索ができない
→画像から検索する(画像引き)文字画像データベースを構築
- ・木簡に関するさまざまなデータベースが別個に存在 ⇒統合DBの必要性
5つの検索方法を1つの窓口から選択できるようにし、情報の集約、利便性の向上を狙う

【システムの特徴】

・日本唯一の木簡を検索するシステム

古代から近世までの全国出土の木簡情報を搭載。

木簡を検索する「木簡データベース」と木簡の文字画像を検索する「木簡字典」とは別個に運用されてきたが、相互の関係を明確にし、同一画面から選択して使えるようにした。

・「木簡をさがす」と「文字画像をさがす」の検索結果一覧の相互移動機能

「木簡をさがす」の検索結果一覧（テキスト表示）と、「文字画像をさがす」の検索結果一覧（文字画像表示）の相互移動ができ、別個だった2つのデータベースの行き来が可能になった。

・多彩な検索機能搭載で効率化と汎用化 ⇒ 一般利用者も使いやすく

検索頻度の高い木簡本文の検索を「本文検索」として独立させて効率的な検索を可能にした。

木簡の形状のイラストや地図、意味カテゴリーから選択して検索できる機能を搭載

・個別木簡のメタデータからの再検索・リンク機能

詳細画面から一部のよく使われる項目に再検索機能を搭載

木簡の報告書を収録している「全国遺跡報告総覧」にリンクをはり、ダウンロードできるようにした。

【効果】

・木簡がより身近に

イラストから検索できる機能を搭載するだけでなく、木簡の解釈なども検索・閲覧できるようにし、一般利用者にも身近な存在に。

・木簡の難しい用語も簡単に理解

木簡によく使われる語句を解釈した「木簡ひろば」の関連ページにリンクし、用語を簡単に理解できるようにした。

【課題】

・収録データの拡充

・機能の充実と利便性のさらなる向上

関係するプロジェクトと科学研究費補助金

この研究およびシステム開発は、下記の科学研究費補助金による研究成果の一部です。

①「研究成果公開促進費」

(文部省科学研究費補助金、1990-1998年度)

②「推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発」

(基盤研究(S)、2003-2007年度、研究代表者：渡辺晃宏、課題番号15102001)

③「木簡など出土文字資料積読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築」

(基盤研究(S)、2008-2012年度、研究代表者：渡辺晃宏、課題番号20222002)

④「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」

(基盤研究(S)、2013-2017年度、研究代表者：渡辺晃宏、課題番号25220401)

⑤「木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究」

(若手研究(B)、2008-2010年度、研究代表者：馬場基、課題番号20720182)

お問い合わせ先

奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室

渡辺晃宏・馬場基 TEL 0742-30-6837

奈良文化財研究所公開木簡関連データベースの概要

奈良文化財研究所は、日本で最も多くの木簡を調査・保管する機関で、日本の出土文字資料研究のナショナルセンターとしての機能を担い、さまざまな文化財情報のデータベースを公開しています。また、国内で出土文字資料の調査・研究に従事する専門チームを抱えているのは奈良文化財研究所だけです。日本の出土文字資料研究の中心拠点とすることができます。

木簡については、その情報集約と公開の必要性から、1980年代よりデータベースを構築し、1999年に「木簡データベース」として公開しました。その後、2003年からは科学研究費補助金により「木簡画像データベース・木簡辞典」、「木簡・くずし字解読システム-MOJIZO-」などを構築し、木簡情報を提供してきました。

今回、これまでの研究成果をいかし、データや機能の集約をめざし、統合データベースとして新たに構築し、公開しました。

【沿革】

1999年	木簡データベース公開 (以降、随時データ更新)	1990-1998年度:文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」及び木簡学会の協力による。
2005年	木簡辞典公開 (基本機能)	2003-2007年度:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発」(研究代表者:渡辺晃宏、課題番号15102001)の研究成果の一部である。
2011年	木簡辞典新版(FLASH版) 公開	2008-2012年度:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築」(研究代表者:渡辺晃宏、課題番号20222002)の研究成果の一部である。
2014年	木簡辞典に諸外国語版を 追加	2013-2017年度:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」(研究代表者:渡辺晃宏、課題番号25220401)の研究成果の一部である。
2015年	「木簡関係研究文献一覧」 リンク機能追加	2013-2017年度:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」(研究代表者:渡辺晃宏、課題番号25220401)の研究成果の一部である。
2016年	木簡辞典に意味検索機能 追加	2008-2010年度:日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B)「木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究」(研究代表者:馬場基、課題番号20720182);2013-2017年度:日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」(研究代表者:渡辺晃宏、課題番号25220401)の研究成果の一部である。

